



申26号 組合員・家族の生活を守り、将来へのモチベーションの維持・向上を実現するための、2022年度賃金引上げ等に関する

## 緊急再申し入れ その②

【22春闘】組合員の声を集約し「緊急再申し入れ」を行うにあたって

注目!

第3回交渉(3月17日)以降、中央本部に6,447件の会社回答に対する意見が寄せられました。短期間で多くの意見が寄せられた事に感謝を申し上げます。

また、3月16日に発生した福島県沖地震に対し、今日も組合員・社員は復旧を行っています。そういった安全・安定輸送の確保に対する職場の努力に報いるために、中央本部は最先頭でたたかい抜きます!

●JR東労組に寄せられた、「組合員」「JR東労組に期待を寄せる未加入者・社友会」からの声

# 6447件

寄せられた意見の多くは、「コロナ禍での奮闘が反映されていない」「モチベーションが上がらない」という会社回答に対する不満や「物価上昇分が考慮されていない」という生活を不安視する声から「再申し入れをするべき」という声でしたが、一番多く寄せられたのが、組合員の生活やコロナ禍での奮闘を顧みない経営姿勢に対する厳しい指摘でした。また、「定昇カット分の支給」や「55歳以上の組合員への賃上げ」を求める意見も多くありました。その一方で、「定期昇給4で安心した」「満足した」と意見を寄せてくれた組合員もいました。

中央本部は組合員から頂いた意見を受け止め、今後のたたかいについての議論を行いました。

中央本部は、本部交渉団と職場が一体となった取り組みにより、定期昇給の完全実施という結果は確認できるものの、頂いた組合員の声から「ベア0」という回答は組合員の生活やコロナ禍での奮闘を顧みないものであることを再度認識しました。

定期昇給が完全実施され「安心」「満足」という組合員の意見もありますが、そもそも、JR東日本の賃金形態は年齢や経験とともに上昇する年功賃金であり、組合員の1年間の努力、将来設計や生活を考えれば「定期昇給4は実施されて当然」と中央本部は考えています。定昇をカットする理由は、就業規則上では懲罰的な意味や休職、欠勤しか存在しません。



しかし、22春闘の回答以降、一部の職場で管理者が「昇給係数4で感謝して欲しい」「満額定昇」等と社員に説明していたことがわかりました。定期昇給は「当然」ではなく会社が判断するものと言わんばかりの姿勢です。この考えでは、毎年の定期昇給が不安定となり私たちの将来設計は描けません。こういった経営姿勢が変わらない限り、今後の春闘を考えた場合に、定期昇給4で安心したり、満足したりはできないという結論に至りました。

よって中央本部は、組合員の生活やコロナ禍での奮闘を顧みない経営姿勢を改めさせ、年収と生涯賃金が減額している状況と物価上昇による生活実感を考慮し、コロナ禍においても日々奮闘し続ける組合員・社員の努力に報い、モチベーションの維持・向上により人材流出を防ぐために、「緊急再申し入れ」を行うことを決定しました。

全組合員の皆さん!要求実現を目指し共にたたかおう!